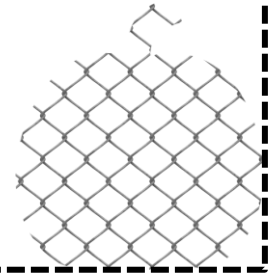


解放の心理学へ

(2)

藤 信子



数日前の新聞記事で、保育所における「不適切な保育」の状況に関する記事があった。こども家庭庁の初めての全国調査のようだ。「不適切保育」とは、「虐待などが疑われる事案」とこども家庭庁は定めることにしたようだ。記事の掲載されたものをもう見ることが出来ないの、インターネットで検索すると（NHK>首都圏ナビ>もっとニュース）「園児の両足をつかんで体を引きずるなどの暴行をした疑い」や「園児の下着姿のまま食事をさせたり」「体をさかさまにして持ち上げたり」するなどの行為が挙げられていた。そしてある保育園の園長の話として「子どもは1対1で対応する時はどうしても気が高ぶってしまうことがある。その時、保育士一人に任せるのではなく、周りの保育士とお互いにフォローし合えるような関係性があれば不適切な対応になるのを未然に防げと思う。そのためにも今の保育士の人数の基準では1人1人の子どもの主体性を大切に保育を行うことが難しいのではないか。保育

士たちがお互いに助け合えるように余裕のある人員の配置がたいせつだ」とある。また保育の専門家の話でも、忙しさのあまり保育士の会が不足していること、研修に出かけることさえできない、ことなどが挙げられている。そして取材した記者のまとめは「・・・不適切保育が起きる背景には、保育士の過度な働き方や処遇の問題があります。こうした保育所が抱える根本的な問題にもしっかり目を向ける必要があると、改めて感じます。」ものだった。このあたりで私は、今更何をいつているんだろう、保育の基準の問題、過酷な職場であるという問題は前から言われていることなのに、いつまでも同じことをいうんだろうと怒りが込み上げてきた。

対人援助職の現場は常に、厳しい労働条件、それに対し低賃金などのために、働く人が定着しない問題なども、繰り返し言われてきている。これは対人援助職が、従来女性の役割であったケアを主とすることもあり、女

性が家庭内でしていた仕事に賃金を払うことを。社会の中の仕事として十分に位置づけてこなかったという面が大きいのだということも随分言われてきているが、一向に解決しない。国の将来を考えるなら、子どもの成長を育むことは大事なことから、そのぶん防衛費の増額など、アメリカの軍需産業に押されるままにお金を使わずに、保育、介護、教育などに。お金を回して欲しいと思うけれど、子ども家庭庁というのは、「子どもは家庭で育てるべし」というような人達の発想でできているらしいから、無理かと気を落としそうになるけれど、そんなことを言うてはいられない。

賃金や人員増に関しては、要求するのはいろんな人たちがするのが良いと思うけれど、新聞記事等になかなか出てこないのは、労働組合の活動である。現在の労働組合の組織率は20%を切っているらしい。でも労働者が待遇に不満を持つ場合、組合に入って雇用者

と交渉するしか方法を思いつかないけれど、他にあるのだろうか？海外ニュースを見ても、日本ではストライキが少なくなったな、と思う。40年近く前までは春闘の時期は、電車が止まったりすることがよくあった。組合の組織率が低いというのは、組合に加入するメリットを感じられないということだろうか？組合費は決して安いとは言えないから、それももったいないということはあるかもしれない。大きな労働組合ならまだしも、小規模なところなら、活動を専従の人に任せることもできないこともあるかもしれない。そのような場合、仕事で疲れているの、それ以上の時間を割けないという気持ちにもなるだろう。時代による産業構造、雇用形態の変化の中で、みずからの労働の位置づけも以前のようにはできにくいのもかもしれない。しかし、福祉や教育の現場では、それほど仕事（労働）の内容が変化しているとも思えない。

福祉職は奉仕の精神で働いているのだから、労働条件などということは言わない、と
思っている人たち（雇用者側）が多いよ、と
いうのは、病院で働いていた時に、ソーシャル
ワーカーから聞かされた言葉で、驚いたこと
がある。福祉施設を作った経営者が、奉仕
の精神で作ったとしても、働く側はそんなこ
とを必ずしもそう思っているわけでもないだ
ろう。なんか思い違いがあるようだなどその
時は思っていたけれど、案外外れていないか
もしれない。自分と雇用している人が別の考
えを持っているということに思い至らないら
しいということにも驚いた。それは経営（と
いうか運営）が家族主義的な考えに基づいて
いるからかもしれない。以前、病院で働いて
いた時に、後輩が1週間の休みに、ある技
法の合宿に参加した、ということを知った院
長が「どうして参加することを言ってくれな
かったんですか？」と私に（後輩ではなく
というところがまた変なのだけれど）聞くの
で、びっくりして「休暇を取っているのです

から、ハワイに行こうが合宿に参加しよう
が、いちいち報告することはないんじゃない
ですか」と答えたのだけれど、言ってほしか
った、というのみでなぜかは分からなかつ
た。この院長には精神医療については多くの
ことを教えてもらったし、精神医療改革に関
することについても、いろいろ学ばせてもら
ったので、その時の経営者パターンリズム
みたいなものに接して驚いた印象を覚えてい
る。今思えば、あれは日本の企業(?)の家
族主義的な面が出ていたのかもしれない。そ
う思うと、私たちが働いている場面で、気が
付かないうちに、家族主義に覆われているの
かもしれないと思った。この気が付かない
うちに取り巻かれていることについて、次回も
考えてみたいと思う。